



宮崎神宮大祭

宮崎を代表する秋の祭り「宮崎神宮大祭」。全国に公募して選ばれた15の神々による「神々のパレード」のほか、今年が神武天皇崩御2600年にあたることから、神話を身近に感じてもらうラッピングバスが行列に登場します。また、10月29日(土)の「神武さま広場」では、神武東征をイメージしたプロジェクションマッピング投影のほか、県外の神楽披露などを行います。

日時	内容	場所
10月26日(水)10時	本宮祭	宮崎神宮
10月29日(土)13時~16時	御神幸行列など	宮崎神宮~大淀御旅所
10月29日(土)17時45分~21時	神武さま広場	高千穂通り
10月30日(日)13時~16時	御神幸行列など	大淀御旅所~宮崎神宮



【問】観光戦略課 ☎21-1791、FAX20-2132



空の日イベント

「空の日」「空の旬間」を記念したイベントが開催されます。詳しくはホームページをご確認ください。

□日時/10月23日(日) 10時~16時

□場所/宮崎ブーゲンビリア空港、航空大学校ほか

□内容/空港周遊ツアー、空港内のお仕事紹介、航空大学校の訓練機体験飛行・フライトシミュレーター操縦体験(当日抽選)



【問】宮崎空港事務所(☎51-3223、FAX55-1239) または企画政策課(☎21-1711、FAX31-6557)

宮崎市美術展



平面・立体・書・写真の四部門の作品を展示します。展示期間中には、参加型のイベントやワークショップのほか、市民が優秀作品を選ぶ「ビビット賞」の投票も実施。投票した人には抽選でプレゼントがあります。ぜひ、芸術の秋を楽しんでください。

□日時/11月5日(土)~20日(日)10時~18時

□場所/みやざきアートセンター □料金/無料

【問】文化スポーツ課(☎21-1835、FAX20-1564) またはみやざきアートセンター(☎22-3115、FAX22-3116)

生涯学習フェスティバル

公立公民館などを会場として、地域の皆さんの活動成果発表や体験教室を下記日程で行います。詳しくは、市ホームページをご覧ください。

	日程	開催地区
10月	1日(土)・2日(日)	宮崎東
	15日(土)	大淀
	16日(日)	檜、青島、生目台
	23日(日)	宮崎
	30日(日)	大宮
11月	5日(土)・6日(日)	佐土原、田野
	6日(日)	赤江東、木花
	12日(土)・13日(日)	高岡
	13日(日)	清武
	19日(土)	加納
	19日(土)・20日(日)	住吉
	20日(日)	赤江、生目南、大塚、東大宮、本郷、宮崎西
27日(日)	生目、北	

※11月3日(木・祝日)図書館まつり、11月26日(土)・27日(日)中央公民館まつりも開催します。

【問】地域コミュニティ課(☎44-1356、FAX22-0200)または各施設

寸止 止め空手とは違い、直
接打撃を加えるフルコ
ンタクト空手。野邑さんと
山崎さんは、8月に東京体
育館で行われた「カラテド
リームフェスティバル201
6 国際大会」という22か国
が出場したフルコンタクト
空手の国際大会に出場し、
それぞれの学年の中量級組
手部門で見事優勝を果たし
ました。

小さい頃から同じ道場に
通い、時には良き練習相手、
時には良きライバルとして切
磋琢磨してきた二人。今回
は二人そろつての優勝だけに
喜びもひとしお。「優勝を目
標に練習してきたので、結
果を出せて嬉しかったです」
と語ります。「普段のきつい
練習よりも、怪我をして練
習ができないときのほうがつら
いです」(野邑さん)、「練習

習に励みます。今後は一般の部での活躍を
目指す二人は「一般の部にはも
つと強い相手がたくさんいま
す。防具の着用もなくなるの
で、今より過酷な戦いになりま
す」と気を引き締めます。一
般の部では学年の垣根もなくな
り、いづれはお互いが対戦する可
能性もある野邑さんと山崎さん。
チャンピオンの座を懸けて対
戦するという目標に向け、
お互いを高めあひながら練
習に励みます。



Catch your Dream.

夢をつかめ!

それぞれ勝ち取った国際大会優勝
さらに上のステージを目指して

Dream 30 山崎 隆司さん(左) 野邑 一心さん(右)

新極真会 宮崎市中央道場

動画は
ココから



Profile

宮崎海洋高校2年生の山崎さんと、日章学園高校3年生の野邑さん。今年1月に発足した空手道場・新極真会宮崎市中央道場に所属し、宮崎道場と国富道場の2か所で週6日の練習を行う。



※QRコードの読み取りには、アプリ「QR・JANコード読み取りバーコードリーダー」を推奨しています。

市長コラム



ねこのひげ日記

恋しくなる母の味

朝晩はめっきり涼しくなりましたが、宮崎の秋はまだまだ暖かいですね。市役所では10月末までクールビズ(衣服の軽装)期間中ですが、私の胃袋は、もう食欲の秋を迎えています。

幼少期、この季節になると、母からホクホクしたものを好んで作ってもらいました。その食材の代表が「からいも」で、「さつまいも」「かんしょ」とも言われますね。からいもご飯、からいもフライ、からいも味噌汁、からいも団子、ねりくりなどがよく食卓に上っていました。特に、芋をカットして天日で干し、石臼で粉にしたものを丸めて蒸したわが家のからいも団子は、素朴でおいしい

秋になると
食べたくなるからいも団子



母の味でした。今ではお店や家庭で見かけることが少なくなり寂しいですね。また、運動会や十五夜祭りとなると、栗の渋皮煮や甘露煮、ゆで栗、里芋の丸ゆで、里芋の煮ころがしが定番料理でした。まさに身土不二とよく言われますが、地元で採れる旬の食材を食べることは健康の維持・向上につながり、最高のご馳走ですね。

ところで冬になると、収穫したからいもは畑に敷いたわらの上に置き、わらで作った囲いの中で保存していました。甘みの増した生芋をこっそり取り出してはかじっていましたが、これもまた、懐かしい思い出ですね。



※コラムタイトルは戸敷市長の「宮崎市版・365日誕生花」であるネコノヒゲ(8月31日)にちなんだものです。